

中学校・道徳の内容項目の解説

向上心・個性の伸長

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること	〔一般的な呼称例〕
(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	向上心・個性の伸長

●解説

全体的な理解	「汝 ^{なんじ} 自身を知れ」「吾 ^{われ} 日に三たび省みる」という言葉があるように、これまでや現在の自分、そして将来こう在りたいという自分を静かに見つめ直すことは、自己の向上を願って生きていく上で重要なことである。また、一人一人の人間は姿や形が違いうように、人それぞれには必ずその人固有のよさがある。その個性を生かし伸ばしていくことは、人間の生涯をかけての課題でもある。充実した生き方は、そうした自分の人生への前向きな取組を繰り返す中で、おのずと体得される。
発達的な観点	中学生の時期は、自己理解が深まり、自分なりの在り方や生き方についての関心が高まってくる。「人生いかに生きるべきか」といった命題にも真剣に取り組むようになる。このことは「よりよく生きたい」という願いの裏返しであり、価値ある人生の実現に向けて限らない模索をしていることを表している。一方で、自分の姿を自らの基準に照らして考えたり、他人との比較においてとらえたりするために、その至らなさに一人思い悩むことも少なくない。そして、他人と同じように扱われることを嫌ったり、反対に他人と異なることへの不安から個性を伸ばそうとすることに消極的になったりすることもある。
指導の着眼点	指導に当たっては、自己の欠点や短所の追求のみに偏ることなく、かけがえのない自己をまずは肯定的にとらえるとともに（自己受容）、自己の優れている面などの発見に努め（自己理解）、自己との対話を深めつつ、更に伸ばしていくようにすることが大切である。また、自分のよさは自分では分からないことが多いので、生徒相互の信頼関係を基盤として互いに指摘し合い、高め合う人間関係をつくっていくように指導することが重要となってくる。その意味でも、優れた古典や先人の生き方との感動的な出会いを広げる中で、充実した人間としての生き方についての自覚を深め、自分自身のよさや個性を見いだしていくことができるようにすることが大切である。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること	〔一般的な呼称例〕	
低学年	-----	
中学年	(5) 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。	個性の伸長
高学年	(6) 自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。	個性の伸長